

「コロナから明らかになった人間の問題」

大谷大学 一楽 真

はじめに

1 コロナは禍（わざわい）なのか

2 釈尊が教える世間のすがた（『仏説無量寿経』より）

- ・世人、薄俗にして共に不急の事を諍（アツ）う。この劇悪極苦の中において身の営務を勤めて、もって自ら給済す。尊もなく卑もなし。貧もなく富もなし。少長男女共に銭財を憂う。有無同然なり。憂思適（マサ）に等し。屏営愁苦して、念いを累（カ）ね慮りを積みて、心のために走（ハ）せ使いて、安き時あることなし。……貪欲（トヨク）のすがた
- ・世間の人民、父子・兄弟・夫婦・室家・中外の親属、当に相（アイ）敬愛して相憎嫉することなかるべし。（中略）今世の恨みの意、微（ス）し相（アイ）憎嫉すれば、後世には転（ウタ）た劇しく大怨と成るに至る。……瞋恚（シン）のすがた
- ・身愚かに神（タシ）闇く、心塞（フサ）り意閉じて、死生の趣、善悪の道、自ら見ること能わず。語る者あることなし。吉凶禍福、競いておのおのこれを作（ナ）す。一（ヒト）も怪しむものなきなり。……愚痴（グチ）のすがた

3 親鸞の呼びかけ（『末燈鈔』第6通）

- ・なによりも、こぞことし、老少男女おおくのひとびとのしにあいて候うらんことこそ、あわ

れにそうらえ。ただし、生死無常のことわり、くわしく如来のときおかせおわしましてそうろううえは、おどろきおぼしめすべからずそうろう。まず、善信が身には、臨終の善悪をばもうさず、信心決定のひとは、うたがいなければ、正定聚に住することにて候うなり。さればこそ、愚痴無智のひともおわりもめでたく候え。如来の御はからいにて往生するよし、ひとびともうされ候いける、すこしもたがわず候うなり。としごろ、おのおのにもうし候いしこと、たがわずこそ候え。かまえて、学生沙汰せさせたまひ候わで、往生をとげさせたまひ候うべし。故法然聖人は、「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」と候いしことを、たしかにうけたまわり候いしうえに、ものもおぼえぬあさましき人々のまいりたるを御覧じては、往生必定すべしとてえませたまひしをみまいらせ候いき。ふみぎたして、さかさかしきひとのまいりたるをば、往生はいかがあらんずらんと、たしかにうけたまわりき。いまにいたるまでおもいあわせられ候うなり。ひとびとにすかさせさせたまわで、御信心たじろかせたまわすして、おのおの御往生候うべきなり。ただし、ひとにすかされたまひ候わずとも、信心のさだまらぬひとは、正定聚に住したまわすして、うかれたまひたるひとなり。乗信房にかようにもうしそうろうようを、ひとびとももうされ候うべし。あなかしこ、あなかしこ。

文応元年十一月十三日 善信八十八歳

乗信御房

(文応元年は西暦では 1260 年。善信は親鸞聖人の名前)

おわりに